

中期目標の制定について

大阪市住宅供給公社

都市整備局	大阪市住宅供給公社の中期目標の内容を資料に沿って説明
清 水 委 員	4 (3) の、指標の 1 番目で改修を令和 4 年度末に向けて、戸数でいうと 100 戸改修していくということで、これについては、その後、団体において、各年度の予算というのがあると思いますので、中期目標に基づく中期計画、それを下ろして各年度の予算の中で設備の改修予算というのは、ある程度想定されると思うんですが、金額的には 100 戸で、すべて改修するとしたら、大体どれぐらいの金額を予想されてますか。
都市整備局	改修には 2 通り、和室をなくす改修工事と、リノベーションと呼んでいる工事がございまして、各々少し金額が違い、和室を改修する工事は、一戸当たり 30 万円から 50 万円程度と聞いています。それから、リノベーションは、水回りにも手を入れたりしますので、100 万円から 200 万円程度と聞いています。各年度はその積み上げになりますので、金額は変動すると考えております。
清 水 委 員	わかりました。それに沿った形で、予算組みをまた、団体の方でまとめたいただければと思います。 それと 2 点目なんですけど、目標で中期目標期間の各年度を 90% としているんですが、これは、90% なのか、90% 以上とするのかというのはあると思うんですが、実際にこれも団体の方でも、90% であればいいとみなすのか、90% を超える数値を目標とするのか、その辺りのお考えはどうでしょうか。
都市整備局	実情で申しますと、先ほど申し上げた和室化ですとかリノベーションをしたような住宅に空きが出まして、新たに入居があった事例というのが、この 3 年間に 127 件ございました。これは、この 3 年間に改修したわけではなくてそれ以前から改修した物件で、たまたま 3 年間で空きが出た、入れ替わりがあった住戸の場合ですけども、その改修した住戸だけに限ってみますと、96.9% の割合でターゲットとしている中堅層に入居していただいておりますので、改修した効果は出ています。そういったものを追求していけば、より高まると思うんですが、一方で 389 戸ある高齢者向けの専用住宅は満室でございまして、住宅セーフティネットの立場としては、入りたいと言われている、要件を満たす方であれば、年齢制限を入居条件につけるわけには参りませんので、そういった高齢者の方のニーズにもこたえる必要があるもので、100% にはしていないということでございます。 従いまして実態として今年度、全体でなべてみれば、新たにリノベーションをしていない通常の住宅も含めて、入居の割合で言えば、9 割入っておりますので、今のお話は 9 割以上という考えで結構かと思います。 それを 100% に、全部中堅層を目指せというところまでやると、少し行き過ぎのところが出て参りますので、今の水準を維持しながらよりいい、中堅層に

	フィットする住宅を作って、本市の政策に沿った方々にきちんと入居の機会が与えられるような、そういう状況を作りたいと考えております。
水 上 委 員	中堅層の定義について※2で書かれている、現役世代で収入分位 25%相当を超える世帯という表現は、別のところで一定使われているようなものでしょうか。
都市整備局	これまで中堅層ということでデータを作っておりませんでしたので、今回初めてここで定義してございます。
水 上 委 員	収入分位 25%相当と書いてしまうと、正確な表現になっていない気がいたしまして、収入分位下位 25%相当を超えるとかにされた方が、正確な表現になると思いますので、ご検討いただければ。
都市整備局	承知いたしました。この辺の表現は公営住宅の入居要件で、国から示されている表現をそのまま利用しておりましたので、必ずしもこの表現にこだわらずにわかりやすいように工夫したいと思います。
阪 口 委 員	二つの指標で考えるということで、団体の中期計画で予算とかのご指導をいただくことになるだろうし、また今の表現なんかもこの収入分位 25%というこの表現で下位ということが含まれてるというのが基本的な理解なんですよ。
都市整備局	世帯を収入の低い順に並べて、下位から 25%を意味しております。 公営住宅の入居収入基準の国の表記でそういう表現になっていましたので記載させていただきました。
阪 口 委 員	わかりました。言葉の意味の確認をしたかっただけなので。 では、大阪市住宅供給公社に関しての質疑応答は以上で終了いたします。

中期目標の制定について

公益財団法人大阪国際平和センター

教育委員会 事務局	公益財団法人大阪国際平和センターの中期目標の内容を資料に沿って説明
市口委員	4 (3)について、小学校全校に対する来館率 85%以上、それと中学校に対する来館率も記載されていて、25%以上ということになっていますけれども、この中学校がかなり低いというところは、それはやはりなかなか中学校が来ていただけないかなということになるわけですかね。
教育委員会 事務局	小学校の時に 85%、ほぼ大阪市全体の学校の、生徒・児童が 1 度は来られて、校外学習の一環で平和学習の場として利用されますので、1 回行ったところというのはなかなか、同じようなところには行かないんですね。例えば 1 回奈良公園に行ったから、中学校で奈良公園へ行くのか、やはりそこは外して次、飛鳥の方に行こうかというふうな形でありまして、小学校で行ったのであれば、中学校でも行くことになりづらいと思います。では平和学習をしないのかというと、そうではなく、例えば中学校の修学旅行で沖縄のひめゆりの塔に行ったりとか、東京では、夢の島の第 5 福竜丸展示館に行ったりとか、別の場所が平和学習で使われているケースも聞いておりますので、少し厳しいというのが正直あります。ただ、そうは言いながらも、少しでも来館率を上げるために頑張っていきたいと考えております。
市口委員	来館率というところはわかったんですけども、平和学習到達度というところで、小学校に対しては、アンケートを実施して目標 85%以上にしてるけれども、中学校は全くそういう平和学習到達度というところでの目標を設定してないんですけども、その辺のお考えは、やはり、今おっしゃったような、来館率が非常に低いからというところに起因するんですかね。
教育委員会 事務局	小学校と中学校とで来館する形も違うところがありまして、小学校では校外学習という形で、その学校の先生が引率して、ピースおおさかに来館するんですけども、中学校でしたらよく聞くのが、ウォークラリーというような形で、例えば社会科の授業の一環として大阪市内を回りましょうということで、ピースおおさか、歴史博物館や今昔館等の施設もある中で、先生がついて回るわけではなくて、チェックポイントには先生がおられるんですけども、子供が個別に来館したりするんです。そんな事情もありまして、なかなか取りづらいというがあるので、今のところは取っていない状態でございます。
市口委員	状況としてはわかるんですけども、せっかく中学校についても、もちろん来館率というところで設定はしていただいたんですけども、平和学習到達度というところでも何かあってもいいのかなという気がするので、その辺り、もう少し何か考えていただけないかなというのがちょっと意見としてあります。
清水委員	4 の(4) 後段でアンケートを書かれてるんでその終戦の日や大阪大空襲の

	あった時期に合わせて開催する講演会、企画展の参加者に向けてアンケートを実施して、市民の平和学習に貢献したか調査を行うと。また、それを、取り組みの改善の参考にするということで、このアンケートっていうのは、その上に書かれている、来館者の市民満足度 75%以上。そそのアンケートのことを言ってるってことですか。アンケートで、アトランダムに市民のいろんな意見を書く欄みたいなのはあるんでしょうか。
教育委員会 事務局	例えば、アンケート欄としましては、企画展について、「この催しをどうやってお知りになりましたか」という設問から始まりまして、5段階で評価するようになっています。それ以外で、ご意見ご感想をくださいという設問もございまして、他には「どんな催しがあれば、参加しやすいですか」というものもございます。 ピースおおさかの仕組みとしまして、企画展は講堂であるんですが、その講堂に行くには、常設展示を見ないと、たどり着けないという仕組みになっておりますので、その中でアンケートの回答をいただいた 10 代のお子さんの中では「やっぱり平和の時に生まれてよかった」という感想なんかいただいているので、そこで一定市民の方がピースおおさかの展示内容によってやはり平和って大事だなと理解いただけているようなご意見等を頂戴しております。
清水委員	わかりました。
野村委員	今のアンケートなんですけれども、企画展の時に、その出口とかで実施されてるということですか。
教育委員会 事務局	企画展で受付を設けておりまして、受付の時に、パンフレットと一緒に企画展のアンケート調査の紙を配っております。例えば、平和寄席ということで、落語の企画の場合などは、ピースおおさかの平和基金ということで、寄付金をいただくような形になりまして、その演者に寄付事業のご協力をお願いしていただくのとあわせて、アンケート調査もお願いしますという形で呼びかけをいただいております。 ただ、企画展以外にも年間通じて実施しているアンケートもあるんですが、回答率が良くないんです。大体年間来館者の 3 % ぐらいでございまして、ただ、企画展では出口で僕らも呼びかけもするので、大体 50 % ぐらいは回答率がありますので、それなりに母数を見込めるのかなというふうに考えております。
野村委員	今の 3 % の回答率のアンケートは、まさに出口のところとかに置いてあるような形のっていうことですか。3 % というところのどのくらいの数ですかね。
教育委員会 事務局	件数、年間で大体 700 枚ぐらいです。7 万人ぐらい来られまして、そのうちの 4 万人ぐらいが児童生徒で、そのうちのさらに 5000 人ぐらいが大体外国の方でございまして、大体 2 万 5000 人ぐらいでございまして、その大体 700 枚ぐらいでございまして。呼びかけはしてるんですけども、なかなか回答に繋がっていないというところでございます。
野村委員	700 っていう数だと、なかなかアンケートの母数としてはあまり意味をなす形

	にならないっていう理解ですかね。
教育委員会 事務局	通常時はそうですね。しかし、企画展が年間大体4回ぐらい、講演会とか、いろんな形で集まっていたいて、そこでなら結構な数が集まりますので。ただ、好意的な意見も批判的な意見もいずれも一定的にあったりしますね。
野村委員	企画展の方は50%ぐらいのアンケート回収ってことですけどそれは数でいうとどれぐらいになるんですか。
教育委員会 事務局	企画展の大体5割集まってもやはり、企画によって参加者の増減があったり、回収率も増減があるんで一概に言えないんですが、1,000は多分集まるかなというふうに期待しています。
野村委員	そうすると母数としてはそんなに変わらないんですね。 そうすると、アンケートの形式が同じ5段階評価なのかわからないんですが、母数にするアンケートをこの企画展に限らなくてもいいのかなとちょっと思ったんですけども、そこはいかがですか。
教育委員会 事務局	一方で、アンケートの分析に割くマンパワーが不足しておりまして、今のこの企画展の集計だけでもかなり団体が負担に感じている状況もあります。市職員も手伝える範囲で手伝ったりしますが、そのあたりが少し厳しいのかなというのは正直あります。
野村委員	それと今現状では企画展のアンケートはそれなりに分析されてるけれども、常に設置してるやつは、手が空いた時にされてるっていうような形になるんですか。
教育委員会 事務局	アンケートの中ではどちらかというとき自由意見欄を重視しておりまして、開館して30年たちますので、やはりその施設の老朽化というのが見られまして、例えばトイレが汚いというようなご意見を頂戴して、それなら、やはり利便性の向上のために、改修の優先順位を上げるという様にご意見を施設運営に反映しています。
野村委員	それと手が足りないから、分析までなかなか自己調節と企画両方やってしまうと、大分手が足りなくなるっていうことになるんですか。
教育委員会 事務局	これもなかなか少し厳しいというか。
委員	75%以上との目標にされてますけど、例えば昨年度とかは何%ぐらいだったんですか。
教育委員会 事務局	企画展の内容によりますけども、大体70%から80%という程度ぐらいの間で推移しております。
野村委員	その目標としては現状維持していくっていうような形で、70から80%ということですか。
阪口委員	団体の方でご苦労されてるんだろうなというのは、よくわかりました。 とりあえずこういうような種類の指標を作られて、三つ目のところで小学校だけでなく中学校も入れた平和学習というのはスタイルが少し違うんでやりにくいということが出まして、四つ目のところで、企画に限らず全部や

	ったらどうっていうのがマンパワーなどの問題とかも含めて考えたら難しいってこういう話ですかね。
教育委員会 事務局	はい。
委員	お話としてわかりましたので質疑応答はこれで終わります。